

まず、多くの危険や事故には、「私たち生徒自身が防げるもの」と「地域の人の協力で防げるもの」の2種類があるということです。特に、道路でのマナーを私たちが主体的に守り、事故を防ぐことが最も確実に安全な方法であることを、橋本警察の人と一緒に通学路を歩いて学びました。



▲放課後を利用して、真剣に見回り調査を行いました。

今回、初めて生徒会と橋本警察、橋本市とが合同で学校周辺の危険箇所調査を行いました。調査にあたり全校生徒などから普段使っている通学路の危険箇所についてのアンケートを行い、その意見をもとに手始めとして橋高周辺を調査していく中でいろいろなことに気づかされました。

今回の活動を振り返って



▲安全第一、できることから取り組んでいます。(一列になって登下校)

例えば車が来たときに、できるだけ道路の端に一列になって寄ること、朝の登校時間帯などは生徒が多いため、より一層周囲に注意をすることなど、一見当たり前のように思えることが、なかなかできていなくて、改善が必要だと感じました。次に、何といても、地域の人や橋本警察、橋本市との協力が、私たちの安全にとって必要不可欠であることを再確認できました。通学路の中には、ガードレールが老朽化していたり、カーブミラーが曇っていたりして見えないなど、生徒だけの力ではどうにもできないことも多くありました。

全校生徒や学校職員から集まった意見を取りまとめ、橋本警察の吉本交通課長と話し合いをしました。アンケートの意見には、次のようなものがありました。

橋高坂は狭く、車が来ると避ける場所がない

橋高坂の明かりが十分でないため、夜は暗く危ない

駅前駐輪場で、バイクなどが死角から出てくるので危ない

側溝にふたのないところがあり、踏み外す危険性がある

アンケートの結果を紹介します

これらの意見をはじめ、多くの意見が寄せられました。また、この話し合いの中で、これらの意見をもとにした危険箇所の見回り調査を行うことにしました。

この活動を通して

生徒会は、個性豊かで責任感が強いばかりで、多くの活動を通して結束力もどんどん強くなりました。

今回の取組みで、高校生でも感じたことを声にする中でカーブミラーなどが整備されたので、どうせ無駄だとあきらめずに意見を言うことが大切だと感じました。

これからも、ボランティア活動に生徒が多く関われるよう生徒会が中心的な役割を果たしていければいいと思っています。生徒も受身ではなく、こんな困りごとがあるんじゃないかと主体的に考え、地域の役に立てるボランティア活動が実現し、地域の人の笑顔を見ることができれば嬉しいです。

平成30年度前期生徒会長 榎本 航征 さん

見回り調査でいろいろなことに気がつくきました

見回り調査は、橋高の正門を出発し、橋高坂を下って、橋本駅前を通り、駅の東から東門まで戻るコースです。

橋高坂は夜になると、街灯はあるものの暗くて歩きにくいという意見が多かったため、調査を行いました。橋高坂に行くと、全体的に狭く、横が崖になっていたりところもあり、非常に危ない箇所だとわかり、この場所は路肩の整備が必要という現状を、同行してもらった橋本市の担当者と共に共有することができました。

▲非常に狭い橋高坂

次に、カーブミラーが古くて見えにくいという意見がありました。実際に調査に行くと、とても見えにくい状態であったので、市の担当者とその場で意見交換をする取り扱い替えることになりました、新しくなりました。また、通学路のガードレールが低いという声もありました。今回の調査で橋本警察の意見としても危険だと判断され、取り替えることが決定しました。

カーブミラーが新しくなりました!

低いガードレールは高いものに交換されます!

この調査で、橋高周辺は道幅が狭く、夜になると暗いということがわかりました。私たちにできることは、より一層交通安全に気をつける気持ちを持つことだと感じました。

地域の皆さんと連携も

今回の取組みで、生徒会が橋本警察や橋本市の担当者と連携することで、危険箇所を安全にすることができました。

これからもこの連携を保ちながら、定期的なこのような調査を行い、私たちの登下校はもちろん、地域での生活がより安全になるように努力したいと思います。

最後に、普段から私たち橋高生・古佐中生を見守ってくださっている地域の皆さん、本当にありがとうございます。これからもよろしくお願ひします。